增補考古畫譜

卷七

増補考古畫譜卷七

黒川春村原稿
古川躬行纂輯
黒川真頼増補

須部

墨容御屏風

江家次第齋宮群行御裝束條云第二間内差進西當階少向巽莽飾御座云々後立墨容御屏風近例又立大宋御屏風

住吉玉出島神影　雙幅

倭錦云信實住吉玉津島神影金泥長銘

貫雄曰落欵以金泥詳加位署可謂奇代珍尾州家藏也

住吉神影　雙幅

内閣文庫

同書云。住吉慶恩住吉神影松鷺二幅

補　同

補　康富記云。文安元年十月二日云々。梅尾春日大明神御影御帳被開之。南都大乘院被所望申被開之云云。春日御影東方西向奉懸之御像住吉御影。彼是兩鋪也。殊勝云云

住吉諏方神影　一幀

倭錦云。土佐光弘住吉諏訪神影小圖

補　住吉大明神御影

補　康富記云。文安元年十月二日云云梅尾春日大明神御影御帳被開之南都大乘院被所望申被開之此次所望之族上下道俗男女拜見無子細之由兼有其聞之間奉伴清太外史并藏氷等今日恭之

令拜見了其儀有開帳寺家之衆有講論之儀式其後南都衆有法樂之後大乘殿有御拜見御退出之後諸人群集頗狼藉之躰也梅尾本堂ヨリ遥東倚テ有檜皮葺堂一宇南面也春日御影ハ東方西向奉懸之繪像住吉御影彼是兩鋪也殊勝云々

住吉物語

畫圖品類云。三巻畫工姓名不詳酒井家所藏

古物語類字抄云。源氏物ゞるりゐ住吉の姫ぎミ。枕双紙ゐもものかるりゐ。をみゑし。うはゑの類とミゑたるゐ。古本ゐくもやう失しゐるべし。今本のふ侍はうひをミるゐ。いさくふるめかしうらぞ。且小一條院の御連歌をさゝ載るゐても。源氏の後ゐらんことゐるし文歟歌うらをもて推

考るゐ承久のころなどゐい侍きけん。ものとゐ
ほし 採要記之
一巻

同

倭錦云。長隆住吉物語

補 真頼曰。長隆の畫ゐく所の。住吉物語一段。博物館ゐあて。又町田久成。岸光景も。まさ各このうちの一段を藏せて

補 同 一巻

補 所藏者不詳畫工詞書筆者共不詳

補 真頼曰。摹本一巻博物館ゐあて。缺本ゐり畫ハ見ことゐるものゐり巻端ゐ子日のところあり

硯破雙紙 一巻

躬行曰。巻末ゐ義高とあるハ書畫の落款ゐハあられ所藏主の名を記しし也

書畫筆者未考

巻末云。明應三年十一月日源義高

古物語類字抄云。色葉集巻三ゐそゝてりとあるハ。古本今昔物語集ゐ收たるものとゐかしかるへけきハ。此雙紙といいさゝゐ異ゐり義高ハ法住院義澄公のもとれ名ゐり。足利家官位記ゐみゆ。此奥書十七才の時ゐあさきり 取要

躬行曰。此さうしハ主の秘藏のをゝてを。従者のあやまちててさるゐ。児のゐをてて父の勘當かうぶり。書寫山ゐ入て出家をるゐしれものかさて也。但こをはやう今昔物語集第十九ゐみ迄さる物うさてをとて。少しかもむきをかへさるゐり

補 真頼曰.硯破雙紙或い硯碎繪詞ともいふ欤圖畫一覧上巻云.硯碎繪詞下巻一巻内藤攝津守所藏天地五六寸大和錦褾背書畫ともみ不詳と見ゑさりこきい欠本あり

補 又曰.此ものかさり二巻あり大納言朝時卿の青侍中太三郎といふもの主人の秘藏の硯を破りさるを朝時卿の若君の十歳をうなるう我う破りたるといふふ朝時卿いうるく若君をころし給へりそきふり後中太三郎發心入道して書寫山ゑ入り性空上人といひていみしきひゑるりあるゑ

瑞應經繪　一巻

補 真頼曰駿牛繪詞あるひい常磐井殿牛の圖ともいへりとノ部見合をへし

倭錦云.解脫上人瑞應經書畫衫浦家藏

貫雄曰.經中釋迦苦行の圖を畫く.紙中半より下ゑ罫ありて.本文をかけゑ

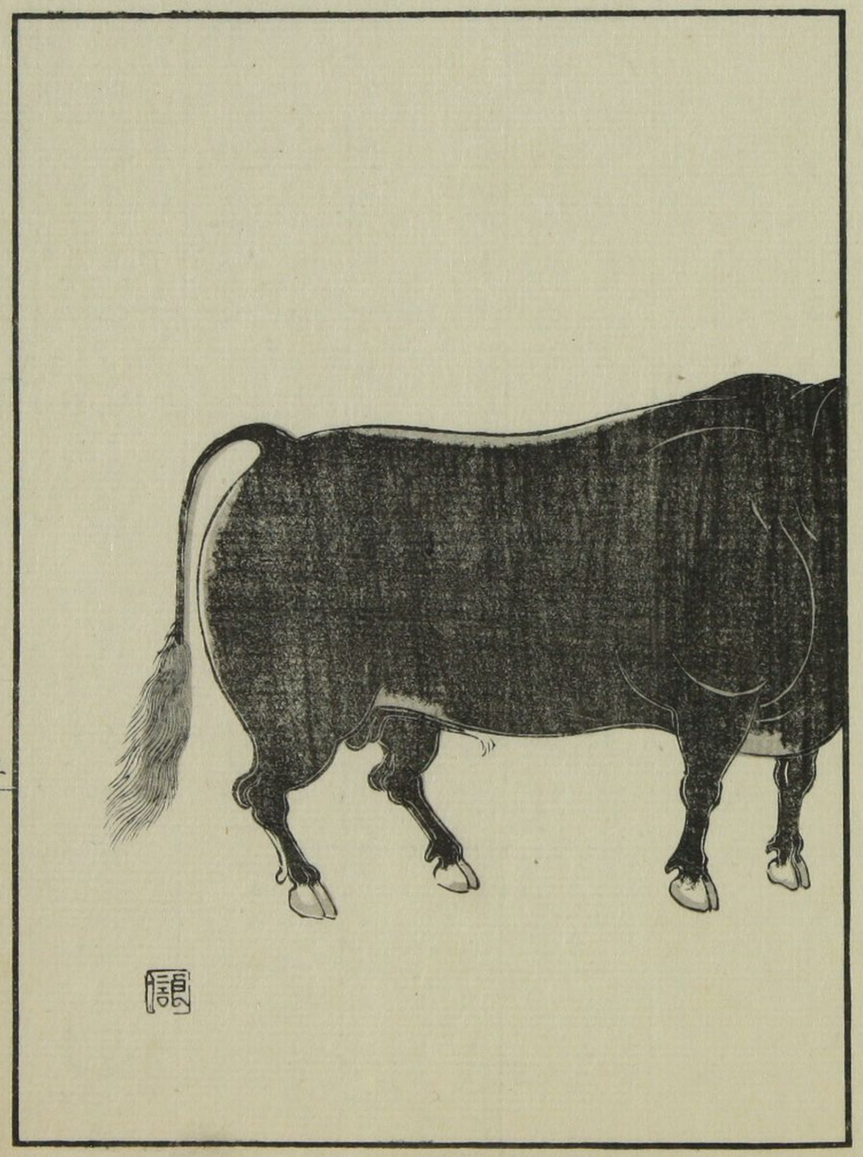
駿牛繪詞　一巻

補 畫圖品類云.駿牛繪詞一巻

畫圖品目云.繪高階隆兼.詞常磐井相國實氏公

躬行按ゑ.西園寺相國實氏公.文永六年六月七日七十六才薨せり.隆兼い延慶元應の人ゑきい.時代後きさり.但有群書類從第四百九十三此詞

補 真頼曰.牛の繪巻一巻.摹本博物館ゑあり牛十頭ゑ畫ゑけゑ.但詞書をもらせゑ.借むへし是恐らくい.常磐井殿牛の圖ゑるへし



駿牛繪詞

所藏未詳 摹本 在博物館

補 同

補 古畫目録云、駿牛繪詞畫相摸守基光寫塙撿校ニアリ

補 駿牛繪詞異本　殘缺

補 尚古圖録云、室町院御牛夏引并弥王丸圖土佐越前守行光筆駿牛圖八枚之内 圖アリ 右駿牛ハ圖一卷八枚今春故あ[illegible]て小濱家よ[illegible]出さ[illegible]しを住吉廣賢板屋廣春板橋貫雄伊能穎則横山由清田代綱蔀長井十足とおのきとよて一ひらつゝさうちさ[illegible]牛の名を記しさる題紙五ひら傳を[illegible]て三枚ハ逸せり按るみ此繪もと詞のありしう失さるうもとよ[illegible]圖をう[illegible]のもの又ハ駿牛繪詞の異本あとの殘缺歟考ふへし駿牛繪詞み

云、夏引御厨牛一名長黒　弥王丸牛飼名　常磐井入道大相國仙洞へ進せらる勢大みあ[illegible]をうさうつくしく身まろく長くく深山の骨そはよ[illegible]ハ高くみゑ前よ[illegible]ハ掌をあそせさるうことくみうをく木はきの骨左右へさしもりて三角みみゑさりあゆゑをとよたくひをくあき車引の逸物なり後みハ女院へ進せらる又云後嵯峨院御代ほとみ名を得さる御牛飼うさをあらへゝめしつうをきさる事をへらは孫太郎鷹法師賽王なといたくひをくあきものともみて侍[illegible]しみ弥王丸非重代のものみて侍しうとも其身の器量拔群したよしを女院さまゝ御さゝ有之進せられさ[illegible]しうハおきまさうたへみをちはと御さゝ侍

けゞ云々弥王ハ後嵯峨院ゟゞ亀山院まてゝおと
ゝめしはゝをきく藝晴殘ゝ所あくふるまひく
さい王たゝ王ゝとも身まゝうゞゝふし後ハ一の者
ゝく子孫おほく繁昌し嫡子いや松あとをはき
て世ゝゆゝゝさきたゞ〳〵云々とみゆ柏木政矩識

補 真賴曰常磐井相國實氏公の詞書〳〵く畫ハ
隆兼といひつゝへたるものゝ殘缺ゝゞやい
なや詳ゝらゝゞゝく今異本として掲ぐ

隨身庭騎圖　一卷

補 本朝畫圖品目云隨身庭騎圖一卷畫為家卿
類聚目録云隨身庭騎圖中院為家卿筆住吉家藏 補古
畫目録古畫類聚目録亦こゝゝゝ同し
好古小録云畫中考ニ備フヘキ事アリ畫力マタ

精好也
倭錦云二條為家卿隨身庭乘圖書畫
春村曰為家卿筆御隨身秦兼清同兼任中臣末
近秦久則同兼躬同兼賴方同久賴同弘方
等九人おのゝ〳〵肖像ゝゞといふ其中久則の
傍書ゝ宝治元年十月院御隨身とあり

補 真賴曰摹本博物館ゝあゞ巻尾云乘馬圖土
佐筆田安右衛門督殿御藏と見ゑゝゞ

同　一卷

類聚目録云東大寺四聖坊隨身庭騎圖

相撲人圖　一卷

補 本朝畫圖品目云相撲人之圖一卷畫者基光公
望阿闍梨

相撲人圖 所藏未詳摹本在博物館

補古畫目録云相撲繪基光公望山門阿闍梨筆千利久藏

好古小録云畫基光及公望基光子阿闍梨其圖古昔相撲乃事皆可ㇾ徵基光ノ畫存スルモノ此外ヲミス

名畫拾彙云藤原基光初名盛光左大臣魚名公後越前守頼成子從五位上内匠頭天性善ㇾ畫當今土佐家者此裔也惜其畫不ㇾ多傳纔有ㇾ相撲圖後世寶重之或云寛仁中人

土佐系圖云基光号ㇾ春日ㇾ清隆男ㇾ畫ㇾ相撲人形

倭錦云相撲繪公持基光覺超寄合書

巻中記云巳上基光巳下公時公持阿梨公

如慶粉本記云此相撲之繪千宗旦有之寫明暦三年八月日住吉内記廣通

大日本史方伎傳云金岡有ㇾ三子ㇾ相覽公望公忠公望之子深江深江之子弘高

躬行按ふ公望ハ巨勢系圖ニ金岡男或ハ公忠の男とも天暦頃の人ぁり覺超ハ元亨釋書ふ慈惠の門人ふして源信ふ兄事ともあ了て畫事ハ古書ふ徵を得ざきども寛和頃の人ともへけきハ公望と年歴のたゞひおほらゝば獨基光ハ分脉ふ越前守頼成男と記し顯文抄ふも應德頃の人ともきば天暦ふ後ろゝ事百三十許年寛和ふおくるゝ事も稍百年ぁり但倭錦ふハ寛弘中の人とせ了然きども基光男珍海大治中の人二男行海ハ顯文抄ふ治承四年十二月十日寂せと東寺長者補任を引証せ了さきば其父ぁる基光ハ永保寛治頃の人とせん事論ぁるへし倭錦の説其よる所をしら

び、又土佐系圖ゐ清隆の男とし、小録ゐ阿闍梨
某を、基光の子とするかと、杜撰いふまたらば
補 真賴曰、角力繪一卷摹本博物館ゐあり

同
一卷
中務丞光弘筆 土佐守光貞鑒 或云松榮畫

補 同
補 圖畫一覽上卷云、土佐系圖云利基 從四位上 石中將 畫
相撲人形、其圖傳寫在家

同
畫圖品目云、相撲圖 紀名虎 伴善雄 法眼元信筆 水戸家藏
羅山文集 卷六十三 續日本紀云、承和十三年六月己酉
散位正四位下紀朝臣名虎卒、按俗說惟喬惟仁爭
位、賭勝負、時名虎與善雄、角力相撲、名虎負、惟仁即

位、清和帝是也、然今年清和未生、何有名虎相撲乎
其偽可知、躬行按紹運録惟喬親王 文德第一皇
子、御母静子紀名虎女、嘉祥元年生貞觀十五年二
月廿日薨廿六歳 清和帝 文德第四皇子、御母
太皇大后明子、忠仁公女号染殿后、嘉祥三年三月
廿五日生、實承和中兩皇子未生已前也、俗說難憑
概如此

同
玉海 承安四年七月廿四日 云、隆職宿祢將来保元相撲圖

同
一卷
狩野山雪畫善雄名虎河野股野事跡
補 真賴曰、摹本博物館ゐあり卷尾云、右相撲圖
右前者能雄名虎之事在、後者河津股野之事也、

東泰院前門主為所進將軍家使先君山雪始圖之永納識

諏訪社縁起繪詞

畫中務少輔隆盛因幡守隆章法師覺智攝津守隆昌和泉守邦貞法師通曉外題　後光嚴院宸翰詞

圓滿院二品親王（勅行兼嗣公序文）久我内府（通相公）六條黄門（有光卿）石山前大僧忠朝臣石山僧正果守青蓮院一品親王（尊道）書續二局

名畫拾彙云中務少輔隆盛因幡守隆章法師覺智攝津守隆昌和泉守邦貞法師通曉右四員合作畫於信州諏訪社繪卷詞書筆者有兩説或云後年續書之槩云則青蓮院尊圓尊道兩親王（或不載尊圓親王出於圓滿院二品親王）久我内府（通相公）六條黄門（有光卿）石山前大僧正（果守）跋尊氏將軍于時延文元年十一月廿八日云云

每卷後云右依御敬神被下宸翰外題之間為後證謹加奥書而已延文元年丙申十一月廿八日征夷大將軍正二位源朝臣尊氏

卷尾云竊以神明之道其義邈哉陰陽不測二義之覆載無私日月俱懸万古之光輝鎮干照也於是信州諏訪大明神者内ゐ秘薩埵之證位外ゐ開和光化門垂跡以来多般乃奇特載之在右不可重宜圓忠苟も繼神氏之遺塵猥居祠官之一職仕路之行莊生涯之通塞偏ゐ任冥睠未墮家之聲仰思恩德之重則相似令蚊負山伏省謝賽之微則奈何以蠧

測海方外今表最初鎮座之根元演無邊利生之真趣圖四季大小之祭禮為十卷真俗之後素欲教至信人弥增偶仰之念不信者始て起歸敬心者也因假丹青之文寫古今之瑞今上皇帝忝下外題宸翰征夷將軍敬記全部之奥書親王台司貴種卿士或者録其義趣或者書其詞章文字則摸王逸少精神畫圖則倣吳道玄之妙手琢荆山之璞以為軸鑾麗水之金以鏤標恭冀書畫不朽而傳萬孫家利益無偏而被卒土俗特請國家安全して禮尊復舊干戈永〻藏悉浴皇澤于時延文丙申臘月上澣執行法眼和尚位圓忠謹誌

右尊神縁起上下兩帙於金剛峯寺悉地院以同院之盛（先師諏方之人）圓法印之本書寫了予安居中也文明四年七月十一日金剛佛子宗詢（生卅二）

園大暦（延文元年八月三日）云今朝武家奉行人謝訪大進坊圓忠當社縁起已下條々有示旨條々可注出云云此事更無才學且神明帳以下事相尋兼豊宿祢大概遣之（大進房注文状令異之了）

諏方大進房状云依無指事久不申承候積鬱如山岳候何條御事等候哉抑諏方社祭繪先年紛失之間縁起之盈觴此間聊相尋實録候一紙令注進候若就御記録等御才學事候哉内々令伺申候者恐悦候可令参入言上候處自去正月中旬所勞渉旬月未及出仕候且捧愚札候也可得御意候恐々謹言八月三日圓忠押左馬助入道殿

中原康富記（嘉吉二年十一月廿六日）云参伏見殿候宮御方御

讀大御所有御出座及御雜談諏方縁起繪事有次申上候處未被御覧之繪也致媒介可借進之由被仰畢可申試之由申上云々（同十二月朔日）諏方縁起繪十卷可借進之由自伏見殿被仰諏方將監候間其由予令傳仰今日持来之間即同道參伏見殿件縁起辛櫃借進上之庭田少將被取繼之被悦思召之由有仰金覆輪一振諏方件縁起外題　後光嚴院殿被遊之等持院殿毎奥被載御名字者也去頃於伊勢兵庫助拝見

補古畫目録云諏訪縁起右傳畫無之詞書バカリ在蜷川相摸守家

補本朝畫圖品目云諏訪明神繪詞三卷畫中務少輔隆盛因幡守隆章法師覺智攝津守隆昌和泉守邦貞法師通暁

元幹曰天保十四年六月詣于當社聞之權祝滋野政敏此畫卷今詞存畫逸但續群書類從第七十三諏方繪詞二卷

補真賴曰雀の發心と雀の松原と同物ゝや本書を見ざるゆゑ定ぞさし

補雀の發心　一卷

補圖畫一覧上卷云雀の發心一卷畫者筆者とも後柏原院勾當内侍江戸淺草寺内藐菴所藏七寸五分許ノ卷物也昔咄ナル糊ヲ喰タル雀ナルヘシ子雀ノ無クナリタルヲ歎クヲ聞テ諸鳥ノ訪フ所也一々贈答ノ歌アリ雀ノ父母遂ニ發心シテ梟ノ尊阿弥ノ室ニ投シテ得度ス剃手ハ鵂鶹ニテグ阿弥ト云果ハ高野山ニ登ル圖ナリ面白キ物ナリ（曲亭馬琴カ羇旅漫遊録ニ尾張名古屋山寄良民所持ト云ハ此卷子也）

補 雀の松原　一巻

補 圖畫一覽上巻云畫圖品類云雀之松原一巻勾當内侍作雀の松原を諸鳥のとふらふよしをかけ給いつれの時の内侍ぬや詳ならぬ

補 本朝畫圖品目云雀の松原一巻勾當内侍作

補 雀の物語繪

補 同書云をゝめの物語

補 春村按風葉集釋教部をゝめ物語の中ぬ方便品若人散亂心乃至以一草供養於畫像漸見無數佛と見ゑまさ草といふ題ふく　なぬとかくたむけし花の一ふさぬかをの佛をゝる身とそあるとありそのほゝの歌ともおほうゑ

補 末葉の露物語繪

補 明月記云貞永二年三月廿日云々日来撰出物語月次十二月五所不入源氏并狹衣於哥ハ狹群他事雖不可然源氏當時中宮被新圖狹衣又院御方別被書此所撰夜寢覺御津濱松心高東宮宣旨左右袖濕朝倉御河ホ開留取替波也末葉露云々

補 須田弥兵衛妻出家繪詞　一巻

補 和學講談所藏本書畫共不詳發端如左

たとへハ人の父母ハ火うちのことしかねハちいしいをゝ火ハ子おゑ是をほくちぬ打付てたくゐことし来ゝ志をらくもとゝまらさるハうゐてんへんの理云云爰ぬ下野國の住人須田弥兵衛と云もの廿五才ぬして討死し譽を万代ぬ残を妻女十七歳ぬして志うたんの涙ぬむせ

ひ思ひの火ゐむねをこゝを云云せめく我夫の
空しく成し其迹を尋まほ〳〵思寢の夢路ゐた
とる心ち〳〵てそゐかゝの空のあつゝさゐ夜い
ゐまきまてゐのひ出足ゐ任せてたとり行心の
内こそあれゐまき

サテ古戰場ニ行テ墓所骸骨アル所ノ辻堂ニ
一夜ヲアカシ夢想アリテ翌朝ニ供養シ又遠
キ所マテ出タツ道ニ一ツノ庵アルニ入テ爰
ニシハシ在ツルニ主ノ女ニワカニ失タリシ
ヨリ後ノワサハテヽアル僧ニコヒ得度シ又
アル貴キ比丘尼ニ道ヲキヽ終ニ佛意ヲ得テ
大往生ヲ遂ト云物語ナリ所々ニ畫アリ

住吉社古圖

補圖畫一覽上卷云.圖畫品目云.攝津國住吉社古圖 本朝画圖品目又こきゐ同し

補須磨の浦圖

補畫工便覽卷一云.在原行平云云常好丹青長歌於于攝州須磨浦戯墨于今存

補真賴曰.行平卿のゑうゝをといふ須磨の浦の圖予いまさ見ぬいうかるものあらん

補硯及置筆墨次第圖

補山槐記陣執筆圖卷云直物仗座圖圖略之右圖就上卷次第注之可用也又硯筥條云件硯雖為常物不可不畫歟但又置筆墨次第任或舊記圖之

相撲節會屏風

本朝畫史云.尊海世称芝法眼南都興福寺東大寺

其所レ畫多。春日安居屋有二相撲節會屏風一以レ是觀レ之
則疑是春日之繪所歟
躬行曰。芝氏代々東大寺繪所ゐたし事い同寺
繪所日記みゝ志るし
補 崇德天皇御影
補 本朝畫圖品目云。崇德院御影六波羅密寺什
補 同
補 同書云。崇德帝御影讃岐國白峯藏
補 真賴曰。集古十種肖像部 ふ崇德帝木造御影讃
岐國白峯安置と見ゆさるい木製の御影ゐり
本朝畫、圖品目ふ載せさるいこれとい別ゐる
へし

世部

山水（センスイ）御屏風

江家次第齋宮群御裝束行云。其艮方東戸間母屋内。北柱、
頭（ホトリ）設二齋王御座一。云云立二山水御屏風一近例又立二大宋御屏風一
補 清涼殿西面遠山有明月御障子
補 平家物語卷一云。清涼殿乃畫圖の障子ふいむ
かしかゐをゝゞかきたゞし遠山の有明の月も
あゞとゝうや
補 大内裏圖考證卷十一上云清涼殿西面障子云
云在所未詳俟二後考一
補 同西面南間唐繪御障子
補 古今著聞集卷十一云清涼殿の唐繪ふも皆書
からいせる事とも侍る

補 真頼曰清涼殿弘廂手長足長御障子いあらうミの御障子といふあゝ部見合をへし又土佐行光のかけりといふもあり。てゝ部手長足長御障子の條見合をべし

補 同弘廂手長足長御障子

補 禁秘鈔上巻云、清涼殿弘廂北有荒海障子南方手長足長

補 真頼曰、手長足長の圖をゑうける障子かりこきを荒海の御障子ともいふあゝ部及てゝ部見合をへし

補 同弘廂宇治網代御障子

補 禁秘鈔上巻云、清涼殿弘廂云云北面宇治網代布障子墨繪也

補 古今著聞集巻十一云、萩の戸のまへある布障子ヲ荒海の障子と名付て手長足長など書さて その北うらゝ宇治の網代をうけて清少納言ぐ枕草子ゐ此障子のことも見ゑさり一條院のこなさゐかゝきさるところそ

補 同弘廂昆明池御障子

補 禁秘抄上巻云清涼殿弘廂云云二間與御局之際立昆明池障子閑院無上御局仍荒海障子副テ二尺許為路立之

補 古今著聞集巻十一云、清涼殿の庇のついたち障子をさて昆明池を圖せらきさて

補 同弘廂嵯峨野小鷹狩御障子

補 禁秘抄上巻云、清涼殿弘廂云云南昆明池北嵯峨野小鷹狩云云

補 古今著聞集巻十一云清涼殿の弘庇のついたち障子をさて昆明池を圖せらきさりそのうらゐ野をゝきて片方ゐ小屋形あてまさ近衛司の

鷹つかひたるをかけて是ハ雑藝ゐ侍る嵯峨野
ゐ狩せし少将のこゝろとぞ彼の少将といふハ
大井川のほとゝゐ住々る季綱の少将の事ゐや
かの大井の家を出く嵯峨野ゐ狩しゝるをうつ
しけるゐこそ

補 同渡殿打毬御障子

補 禁秘抄上巻云.清涼殿三間云云北副高欄立布
障子二間立柱打付畫打毬

補 渡殿馬形御障子

補 同書云.清涼殿三間云云女官ノ戸ヨリ路ヲ通
テ立馬形障子馬形号波祢馬也

補 古今著聞集巻十一云.清涼殿云云渡殿ゐもね
馬よせ馬の障子を立て云云閑院ゐ大内をうつ

さきて後よせ馬の障子并李將軍ゞ障子なと沙
汰なゐゝけるを四條院の御時西園寺相國禪門
修理せらきける時頭中將資季朝臣申起て立ら
きさりいと興ある事也此障子の繪本共鴨居殿
の御倉ゐゞ侍なる建長造内裏れとき繪所の預
前の加賀守有房繪本をもたきゝけきい取出し
てかゝせらきけゝむうし彼馬形の障子を金岡
ゞ書たゝける夜々もあきく萩の戸の萩をくひ
けきい勅定有て其馬をつあきさるていを書な
さきたゝける時もあきび成ゐゝと申傳へ侍
るい誠なりゝる事ゐや

補 同鬼間白澤王斬鬼御壁繪

補 禁秘抄上巻云.清涼殿鬼間云云南壁白澤王切

斬鬼御壁画い所謂鬼の間の繪也
おゝ部見合をへし

鬼云云

補 古今著聞集巻十一云鬼の間の壁ゐ白澤王をかゝきたることいむうし彼間ゐ鬼のそゝけるを鎮らきゝる故かゝきたる事とい申傳へたきともたしうあ る説をあらは

補 河海抄巻五須磨云千枝常則共畫工也應和四年四月九日御記云召左衛門志飛鳥部常則圖畫西廂南壁白澤王像常則名字天曆御記中多在之

補 臺盤所馬形御障子

補 禁秘抄上巻云臺盤所云其南立馬形障子

補 古今著聞集巻十一云渡殿の北の邊朝ぎきひの前ゐ馬形の障子侍ア

補 同臺盤所大和繪御障子

補 禁秘抄上巻云臺盤所云云抑臺盤所東北障子到鬼間和繪也

補 真頼曰此のやまと繪の御障子ハいをゆる鳥居障子あア三長記建久七年十二月九日の條見合をへし

補 同朝餉間猫の繪御障子

補 同書云臺盤所云云御手水間方障子畫猫

補 同陣座李將軍射虎御障子

補 古今著聞集巻十一云清涼殿云云陣の座の上ゐ李將軍ゞ虎を射ゝる障子をよせゝけ云云こきこゝおいつれの御時よアといふ事をあらは由緒のさゝ〳〵おほつうあし閑院ゐ大内をうつさきて後よせ馬の障子并ゐ李將軍養由ゞ障子ゐ

と沙汰あうてげるを四條の院御時西園寺相國禪門修理せらるける時頭中將資季朝臣と申起て立らるさていと興有事也此障子の繪本共鴨居殿の御倉ふそ侍かる建久造内裏れとき繪所の預前の加賀守有房繪本をもとさてけるバ取出してかゝせらるけて

千體阿弥陀像　一鋪

倭錦云千體阿弥陀巨勢有久

補　千手觀音像

補　明月記云元久二年正月十一日昏奉書終法華經是先妣十三年遠忌料也以此縱遂此願以父恩報母恩二親深恩重知之喚寄佛師可造地藏像由示付料物賜鞍又令奉畫千手觀音去年七月於宇治夢見先妣罪障心中增悲殊營此事

補　同

補　台記云康治元年八月六日去月十六日所奉造之千手觀音令朝使少僧都覺晴南京供養了遣中川聖人實範許令供之祈瘧瘍平愈僕少年養猫々有疾即畫千手像祈之日請疾速除愈又令猫滿十歳猫即平愈至十歳死（裹衣入櫃葬也）爰知此菩薩靈驗新仍此瘧瘍殊祈請此佛者也

補　同

補　駿府志略云久能寺真言宗云云有弘法大師五大尊圖惠心僧都千手觀音圖聖一國師入宋時所着袈裟

勢至菩薩像　一幀

倭錦云.小野道風勢至尊野山小坂坊什物

補 同

補 畫工便覽卷三云.釋源空号法然上人常圖繪弥陀及觀音勢至像又畫經意精器不少

補 同

補 倭錦云.小野道風勢至尊山水中三尊佛 一幀

同書云春日基光山水三尊來迎

補 善光寺如来像

補 善光寺縁起卷四 浄蓮上人源延如来拜見之事 云夫浄蓮上人伊豆國之人家伊豆河東走湯山所生也若年時依學澄憲住山多年也 中略 浄蓮上人急善光寺參詣七日篭勤修營四日夜相當又如来告言早上人我可拜見此旨自他示現依承久三年辛巳堂内人門外出四面門戸開浄蓮上人指燭宮殿置頭面三禮御戸開如来拜見 中略 爰足抑如来御色濃紫如御長一尺五寸右御手施無畏印肩等是持給御指末少屈給左御手刀劔印結大指無明指相去二分計是持給二菩薩同寶冠住般若梵篋印相也爰源延落涙以硯水自御尊像圖繪給 下略

補 春村曰.浄蓮房相摸國西部邊松田ト云所ニ一寺ヲ建立シ往生浄土ヲ祈号西明寺トモミユ

補 千躰不動尊像

補 古今著聞集卷十一云弘高少年の時出家したるけるゞ後ゝ還俗志ゞるもの也其罪をおそれ

てゝづゝ千躰不動尊を書て供養志けるとな
ん

清海曼陀羅　一鋪

畫工不傳、大和國添上郡極樂寺所傳（寺在寧樂古称極樂坊）

躬行曰、元亨釋書（巻十一）云、清海入超勝寺精勤、一日香煙之中弥陀像現、其長五六寸、海不耐感喜、便取像奉安、今尚在焉、まゝ閑居友ふ清海上人發心のくゝゝゝ云、此人觀念成就して、居たまひけるめくり一里ばかりを、淨土ふあし給ひなるかとみそたまど、此曼陀羅の事い見ゝば、此まむたら恐らくい、元のころの漢畫かゝんと貫雄いへゝき

補　清海曼陀羅　一幀

補　鐮倉光明寺藏、絹本、紺地金泥畫

補　政矩曰、長德二年十月廿三日云云とあゝ

善知識曼陀羅　一鋪

名畫拾彙云、明惠上人嘗手寫善知識曼陀羅、未完卒、後在京師日令佛師法橋俊賀補足、于時有鳥如烏色似山雞日々来戲庭中、如欲結縁曼荼羅之意、俊賀執筆寫之曼陀羅中

躬行曰、高山寺聖教目六第十九合中、有善知識圖一卷、又曰第八十合中知識圖一卷、可合考

補　前九年合戰繪

補　東鑑巻十九云、承元四年十一月廿三日丁未、奥州十二年合戰繪自京都被召下之、今日御覽、仲業依仰讀申其詞云云

前九年合戰繪詞
所藏未詳摹本
在博物館
將軍

義家
景通
則明
通利

補 真賴曰奥州十二年合戰とあきゞ此の内ゟ前九年合戰繪のあることあきらけし繪ハ靜賢法印ゟるへきことの考あるこゝ部後三年合戰繪の條見合をへし

前九年合戰繪詞　六卷

補 本朝畫圖品目云前九年繪一卷摹本在二松平加賀守家一在河内國譽田□□□倭錦云筆者不定前九年合戰

摸本奥書云曆應康承頃詞書世尊寺行尹卿原圖松平加賀守殿所藏寛政八丙辰年十月中旬寫之住吉内記

補 可為曰元加賀城主所藏土佐家移寫有之

補 春村曰余ゞ見さる缺本一巻ゟい傳云飛彈守惟久筆とあるこゝ

補 真賴曰博物館藏摸本ゟハ住吉内記の奥書ゟし

補 真賴曰此の繪巻今ハ前田家ゟ無しとき其の家扶ゟとふゟ固よるこゝ家ゟいなしといへるこゝ又按るゟ本朝畫圖品目の説ゟるれハ前田家ゟ傳ふるところのもれハ摹本ゟゝ本書ハ譽田八幡宮の藏ゟるこゝしゟや

補 又曰前九年合戰繪或ハ奥羽軍記ともいふ摹本一巻博物館ゟあるこゝ巻中一巻ゟるこゝ六巻までの目を記せるこゝ詞書巻首一段のゝ存せり

同殘缺　一巻

畫中務丞光弘詞逸（畫中記武者名）

巻末云右義家武者繪之巻物土佐中務光弘真筆無異論者也仍證之而已元禄二曆閏正月上旬法

眼常昭

補 貫雄曰、此殘缺恐らくハ承元四年吾妻鏡ニ見ヘタル十二年合戰の零本あるへし、住吉弘貫鑒ーて宅磨為行所畫とせり、是を以て光弘筆とするものハ甚誤る但長井十足藏

清少納言繪詞　一巻

書畫筆者未詳、或云畫逸詞存

補 圖畫一覽上巻云清少納言繪詞一巻續羣書類從ニ收む畫不存松島日記と云と云云

攝關影　一巻

畫工未詳法性寺関白忠通公已下後圓光院関白冬教公ニ至ル

補 博物館藏摸本巻尾云右攝関影一巻狩野祐清相傳粉本也表紙ニ正護院トアリ案ニ聖護院ノ誤歟然ル時ハ元本聖護院藏ニアル

ハ天保八年丁酉三月以件本手摸畢會心齋法印

補 真賴曰、攝關影ハ大臣影とおかし物あるたノ部大臣影の條見合をへし

節會繪詞　一巻

畫工不傳

補 真賴曰、摹本博物館ニあり

誓願寺縁起繪　三鋪詞書六巻

補 古畫目録云、誓願寺縁起三幅絹本右之内一幅海北友松補書

好古小録云、二禎畫工姓名不傳、元三禎ニノ一禎ハ不傳ト云可惜、古老傳云、此本寺ノ縁起ニ非ス、後人辭ヲ附會ノ本寺ノ縁起トナスモノ也、繪ト詞ト合ガタキ所アレハサモアランカ、但畫力ハ

精好ニノ故實ヲ存スル事オホシ

倭錦云、土佐行光都誓願寺縁起大幅

展閲目録（誓願寺條）云、縁起三幅（一幅者後人之所補也）畫力精逸

而多存故實、所補之一幅海北友松所畫歟

道の幸（同條）云、誓願寺縁起繪を見る、誰の筆といふ

ことハ傳へもあかなきとも、いとをくきさるもの

のよしいへり、みをもかう釣九あとのさまも、故

實あさやうみく、此さびの御造營ゐもこの畫ゐ

よらきく、御再興あり、しことあとありとそ、三幅

あるゐ一幅ハうけて後人の補へるあり、云々詞

書ハこあさへとりさるせく、北村某ゐもとより求

たる本と校合しつ

詞書六巻、鷹司房輔公近衛家凞公、大僧正道恕、梅

小路定矩卿、葉室頼孝卿、堯恕法親王、三室戸誠光

卿、東園基賢卿、基量卿、愛宕通福卿、尊證法親王、園

基勝卿、今城定經卿、水無瀬兼豐卿、有栖川宮幸仁

親王、萬里小路淳房卿、梅園季保卿、油小路隆貞卿、

今出川伊季公、公辨法親王、中院通茂公、清水谷定

業卿、庭田重條卿、梅小路共方卿、清閑寺熙房卿、藤

谷為茂卿、清閑寺熙定卿、風早實種卿、大炊御門經

光公、真敬法親王、性真法親王、竹内惟庸卿、裏松定

光卿、飛鳥井雅豐卿、近衛基凞公、等合作

宣胤卿記（文亀二年四月三日）云、誓願寺縁起繪、彼寺僧持參

被懸之（二幅）續縁起（一巻）殊勝増信仰

同書（永正十四年正月十二日）又云、誓願寺繪詞一段書之

躬行按ゐ、此ゐ記を中御門宣胤卿筆の本も、集

書ふや有つらん。今いあるとも聞ゑず。上件合作の詞書ハ。夫ゟ百五六十年の後貞享元禄の頃ゟい伝きけんうし。但續羣書類從第七百八十三有誓願寺縁起一巻

補 真頼曰。行光の畫ける誓願寺縁起繪二鋪摸本博物館ふある

同繪詞　三巻

展閲目録同條云。書畫筆者不知住吉廣行云友松所画

補 本朝畫圖品目云。誓願寺縁起二巻畫者不傳詞寄合書

清凉寺栴檀佛縁起　五巻

補 本朝畫圖品目云。清凉寺栴檀佛縁起五巻古法眼元信ト云傳フ

畫圖品目云。傳謂古法眼元信所畫

遠碧軒記云。嵯峨清凉寺五巻縁起ハ。古法眼七年カヽリテ精ヲ出シタル極彩色ナリ。見事ナルモノ也

補 第六巻末云。西天東震日域傳来年期畧記中略本朝光降自人皇六十六代一條院御宇永延元年丁亥今至永正十二乙亥歳五百廿九ヶ年也都合三國年期經二千五百六箇年焉

自如来入滅周穆王五十三年壬申至今年乙亥二千四百六十四箇年也般涅槃已前四十三年瑞像刻彫也云云

補 春村曰。无跋文

貫雄曰。此巻曾て真跡をみるゐ。元信所畫二三

局よりきゝ、其餘ハ門人の手ゐ出るものなり但續羣書類從第七百八十九此緣起詞を收む

補了仲曰、詞書筆者ハ定法寺前大僧正公助の筆なり

善導大師緣起　一卷

倭錦云、土佐光重善導大師緣起詞行俊卿

補善導大師繪詞　一卷

補鎌倉光明寺藏、畫土佐光茂、詞筆者世尊寺行俊卿外題狩野探信、增上寺衍譽利天大僧正寄附

善界坊繪詞　二卷

類聚目錄、載之

卷後云嘉曆四年僧圓譽書畫小卷也京師曼珠院什

西山上人緣起　一卷

畫工姓名未詳、詞青蓮院尊道親王、大乘院道圓親王、一條關白經嗣公、同中納言公勝卿、禪林寺中將有季朝臣、奥書云至德三年丙寅十一月廿五日、西山往生院上衍房記之

補春村曰、法然上人弟子善慧坊證空傳ナリ證空繪詞トハ別ナリ第一後青龍院一品尊道親王第二後大乘院無品道圓親王第三成音院閑白一條經嗣公第四一條中納言公勝卿第五禪林寺中將有孝朝臣第六同上至德三年丙寅十一月二十五日西山往生院上衍房記之トアリテ名字ヲ記サス當時ノ住持ナルヘシ已上刊本モテ記之正保第五代子如月日木村治郎兵衛刊行トアリ畫卷ハ往

生院ニアル歟

是害坊繪詞　一卷

書畫筆者未詳

補 真賴曰、摸本博物館ふあ是害坊風呂ふ入る所あ是

補 又曰是害坊一卷予明治十八年十月こを見る繪太夫法眼永春詞書筆者冷泉爲重卿末の一段書繼冷泉左中將為清と匣の蓋ふ記してあり青山幸宣の所藏ふり此の繪を永春とさためさるハ住吉廣行の鑑定ふ是因く按るふてノ部天狗草紙一卷畫法眼永春詞二條爲重卿と見也さるもの即是なを

清涼殿古圖　一鋪

國朝書目載之

山陵圖　一卷

畫圖品目載之

躬行曰伴信友按正そるものまさ帝陵圖記と称そるもの、なを其他四五本あを、又津久井清影聖蹟圖志二帖を撰し、刻本とふせを

青山御琵琶

紫藤槽撥面畫青山碧樹明月

樂家録云、仁明帝御物、承和六年貞敏得琵琶二歸、玄上、青山是也

三代實録貞觀五年十月四日云、從五位上掃部頭藤原貞敏卒、兼和五年至大唐達上都、逢能彈琵琶者劉二郎云云劉二郎臨別設祖筵、賜紫檀紫藤琵琶各一、是

歳大中元年本朝兼和六年也

躬行按ふ此條倭漢年紀不合本朝兼和六年ハ唐文宗開成四年ゟ至宣宗大中元年ハ皇朝兼和十四年也さて此青山さゝゟ至れ名器ふろをもろくゝの樂書ともふもおほくみ巻に琵琶とゝいへゞまづ玄上牧馬としもいもろゝハはやう失ぬるふこそあるらめ今も青山といへる名ハこゝかしこふ聞巻さ巻どけふとおほゆるハさらにあらひあんあろ

儒女樹石屏風　六扇

在東大寺正倉院中

躬行曰紙本白描樹石女子を畫之一扇一人樹下ふ立或ハ石上ふ踞し窄袖の衣を着裳をけ領巾の如きものを肩ふ纏ひ手ふ玉をさゝ巻まさハ拱手せ至其うち一人ハ木葉を着さ至面貌豊滿ふして皇朝人ふ似さり蛾眉濃ふ巨大の髪の如きものを戴き頂上ふ帽あり眉間ふ各緑色の小點をつく佛の白毫ふ等し又細小点二四個をけさろもあ至然して口吻左右ふ圓点各一まさ左右各二或ハ眉間のみふして口吻ふ点せざろもあ至按まろの壽陽公主の梅花點等のたぐひともいふべくや同藏紫檀槽螺鈿瑤珞雙鳥等を嵌せろ阮咸の撥面ふ子女四人宴樂圖を畫く其婦女おのく眉間ふ小圓點を施せ事まさふこゝとおふじ合せ考ふべし偖此屏風名はくろ所を去らば

日本後紀、弘仁三年二月壬辰、屏風一帖障子四十六枚施入東寺

献物帳已下出納簿曝涼目録等ゐ索きども充へきものゐし、天平勝宝ハ載献物帳ニ子女屏風弘仁五年九月十七日の出納簿唐女形屏風あきども、是ゐハあらざるべしかき今假ゐ名けく櫻女屏風といふ、但此六扇多少の入墨補綴あり

山水屏風　東寺藏

展閲目録東寺條云山水屏風寺傳謂唐憲宗所賜、然きとも住吉内記舊記ゐ珎海筆とも珎海ハ土佐基光門人延久中人本朝畫史ゐ建仁中の人とせ已畫体其頃ゑ已も甚ふるく見ゆ

畫工便覽云、珍海基光之子善繪、成三輪宗已講本朝畫史云僧都珍海醍醐寺僧而住禪那院吾近遊醍醐寺有観之畫文珠粉本、其裏有建仁二年十月珎海筆之字、筆法上古之風而已或曰住東大寺

補古畫類聚目録云山水屏風片東寺什物

倭錦云、春日基光山水屏風繪平安東寺藏

貫雄曰、此繪樹下小亭ニ人あ已、又騎馬官人櫻花水鳥等をゑのく、此以テ絶倫ゐ已

春村曰、珎海ハ并心集の自跋ゐ、大治三年とみ已、本朝高僧傳ゐ、仁平年中住禪那院とあきハ、延久ハ未生以前、建仁ハもるゐゐ入寂の後ゐ已怪しむへし

躬行曰、珍海行海ハ分脉ゐ、内匠頭基光男、三論宗東大寺已講、畫師と見已、菩提心集の作者、大治中の人ゐ已、展閲目録ゐ基光の門人延久中

山水屏風 京都東寺藏

の人とし畫史ハ建仁中の人とさるものハ並ハ誤ハり

補 真頼曰東寺山水屏風摸本住吉家ハあり（神護寺藏）

同

補 古畫目録云山水屏風大和山水上ニ色紙形有リ高尾山ノ圖ナリト云蜷川親元ノ説アリ京都高雄神護寺藏

補 本朝畫圖品目云神護寺山水屏風

展閲目録（神護寺條）云山水屏風（有色紙形）畫法最殊勝ヶいへども東寺山水屏風よりハ新らしくみゆ

倭錦云筆者不定高雄什物大和山水屏風一帖（色紙形有）

雍州府志（神護寺條）云弘法大師所畫六曲屏風之山水彩色至濃矣元一雙物而其隻今在酉々報恩院於彼院謂畫工康房之筆也弘法與康房倭音同故當寺誤称弘法者乎

顯密威儀便覽云密灌及曼供必用山水屏風一本二品為唐玄宗宸遊圖一為京西高雄山圖

春村曰神護寺所藏屏風ハ海邊山水唐人物の圖ハ玄宗宸遊圖ハるべし

同（醍醐報恩院藏）

本朝畫史云康房不知姓氏醍醐水本報恩院所藏之畫山水屏風者則康房筆也蓋上古之風耳

躬行按ハ畫史ハ酉々報恩院藏十二天像律師康保所畫とせり康保もまさ康房と音相似さ是等のうち必誤あらん

同（高野山藏）

同書云、空海能用木筆、為梵漢字並佛像、至於襍畫亦有之、今高野山有山水屏風

同（三宝院藏）

同書云、真海僧都者、蓮藏院實深僧正弟子也、書畫並能、畫三寶院山水屏風及二天像

同

倭錦云、土佐寂濟、山水屏風

補同

補古畫目録云、東大寺四聖坊山水屏風

補真頼曰、此の屏風今ほあるふや尋ぬべし

節會屏風

倭錦云、住吉具慶禁中御節會屏風其外數多

補関ヶ原合戦繪小屏風

補摹本四枚博物館ふあり畫工不詳

補真頼曰、諸將の名を記せる畫ハ彩色ふて人物甚ちいさし

扇面法華經繪

書畫筆者不傳（攝州四天王寺藏）

躬行曰、扇面上ふ經文の意を畫き、まゝ本文を畫中上下左右ま趣をふして、雜へ書したるも と障子ふ貼もべきゝめの、何の設けふるを詳ふきび、男女面貞衣冠保元已上の風格ふして書畫不凡古色蒼然愛もべ｜

禪林變相圖　一鋪

名畫拾彙云、尊賢（号伊豫法眼）幸賢（号兵部法眼）祐尊（号大貳公）尊

重（号備中公）右四負所合作曼陀羅在遠江國横須賀撰要寺其背記云禪林變相一幅正和二（癸丑）五月廿七日於勢州安濃称念寺三十七日逗留之間云々所奉圖也如件

補 世尊寺伊行朝臣朗詠集料紙繪

補 本朝畫圖品目云世尊寺伊行朗詠集料紙葦手下繪

補 雪舟入唐繪

補 古畫目録云僧雪舟入唐畫風土歸朝而傳之雪舟真筆卷在土佐家

補 小法塔圖

補 畫工便覽卷三云釋是生号日蓮上人（院号大蓮明院）貞應元年二月十六日生于房州小湊浦於比叡山學法後廣説八軸自成一家法義号日蓮宗矣善書亦工作畫圖下總國於正中山法華經寺圖小法塔其繪一々佛躰修莊嚴最可賞也

清和天皇玉體加持圖　一幀

傳云僧都覺超所畫（梅尾十無盡院藏原本在比叡山信長公燒延暦寺此時羅災云）

裏書云清和天皇玉體御加持圖慈覺大師御修法之圖（覺超僧都筆）壹幅此尊影破損之間延文五年（庚子）十月廿日仰表背師道慶奉修補畢又記云慈覺大師（圓仁）御修法玉體加持圖覺超僧都繪嘉永四年（辛亥）四月八日奉寫之畢（原本法來院藏本也高山寺沙門慧友□七十七才）

補 真頼曰此の圖摸本博物館ふあり清和天皇と慈覺大師との圖ふて巨幅あり

補 先哲圖像　一卷

補 拇尾高山寺藏文治年間玄證畫

補 兼文曰孔子以下聖賢の像をゑがけるもの
ふ

補 善導大師像

補 明月記云寛喜二年十月二日申時許備州来臨
依二品親王仰向嵯峨寫善導影之次入心寂房々
樹木前栽之幽趣驚目此病已絶驗由自讃云々乘
燭之程畧

補 善珠僧正像

補 扶桑畧記拔萃云延暦十六年丁丑正月十六日
興福寺善珠任僧正云云同年四月丙子日僧正善
珠卒七十五皇太子圖其形像置秋篠寺法師俗姓

補 真頼曰備州八信實朝臣ふり

安部宿称京兆人也流俗有言僧正玄昉密通太皇
后藤原宮子善珠法師是其息也云云

補 雪舟像　一幀

補 紀州家藏自畫摹本博物館ふあ

補 真頼曰半身の像ふく畫上ふ明人青霞の賛
あ弘治丙辰歳再季春念八日とあ

補 同　一幀

補 所藏者不詳繪秋月筆

補 真頼曰半身の像ふあ案ぞるふ雪舟の自畫
を摸せるものふるべし畫上ふ秋月の印あ
摹本博物館ふあ

補 千利久の像

補 倭錦云土佐光吉利久肖像賛春屋

曾部

尊勝曼陀羅　一鋪

東寺御影堂具足目録云.中務少輔久行康暦元年圖之

奏慶圖　一卷

畫圖品類云.狩野永納筆

曾我物語　一卷

倭錦云.住吉如慶曾我物語

補 古畫目録云.曾我物語二軸摹在土佐守寛政九年四月十四日觀八町堀藏書ニモ摹本アリ

同　二卷

圖畫品目云.海北友雪畫

補 袖ぬらす物語繪

補 明月記云貞永二年三月廿日云云日来撰出物語月次十二月不入源氏并狹衣（狹衣ハ抜群他事ハ雖不可然源氏）

（當中宮被新圖狹衣又院御方ニ別被書）此所撰夜寢覺御津濱松心高東宮宣旨左右袖濕云云

補 真頼曰古今著聞集巻十一ふ後堀河院御位もべらせ給ひて内大臣の冷泉富小路亭ふわたらせ給けるふ天福元年春のころ院藻壁門院の方をもうちて繪つくの貝おはひあつけり云云とあるハ明月記ふのせらきたるとおふし時のことふてその繪ハまけもさふまらけらきたるものふをけり委しくハ本書を見るべし

蔥花輦行幸圖

類聚目録載之

補 圖畫一覽上巻云畫圖品類云行幸圖一巻土佐其所畫此別歟

補 僧の死相繪

補 撰集抄巻五（禪門僧山居往生事）云永暦のもゑの八月のころ信濃國佐野のもさをを過侍をしふ云云もきかるうや萩女郎花を手折て菴むもひて居たる僧あり云云ことふやさしくたつとくおはゑくなどの人ぞいづくふり爰へハ来り給ふふやといふもゑ此春ふをとばうをこたへく其後ハ何ごとをとひしうどもつひふ物ものさまハざをきさるほどふ日もかさふけバ名殘ハつきせねともふくくくわうをてかへりしう結縁を

もせまはしくてあさの衣をぬきて彼菴ふおき
て出侍をきかくて西の方へあゆゑ出たれいま
ことふけいしき山あり水きよく流きて岩のあ
をさまをろめ免つらうふ繪ふかくとも是ふい
ふせじと心とまる程ふる所あり川の水上をさ
つねゆけバ一町あまり来ぬらんとおもふ程ふ
木の葉をさしおはひく六十あまりふたけさろ
僧いまそうをけり爰ふもまさかゝろ人やおも
しけをとおもふをむねさいぎて急ぎよをてみ
きいうろはしく座して祢ふろやうふていきた
へ給へろ人ふり木の枝ふ紙ふく札を付置給へ
をむらさきの雲さつ身ふしあらされい澄ろ
月をそいつまても見ろといふ歌の札ふりあも

きふかふしく侍をて上の聖の同行ふこそと思
ひて急き行く右ふ〳〵といふふいとあもれふ
こそとて硯引よせく紙ふかくふん　まくひつ
ろ心のやゝを照しこし月もあやふく雲かくき
けをと書をハをて筆をもちふうらねふきろや
うふしく終られぬあさましく悲しくて袂ふと
をつきておめけともかひそ侍らぬ又山陰ふ住
給へろ人ゝいうゝおゝもろと思ひくふく〳〵
はしをを行く見きゝもや首ハ前ふかさふきろ給
へをさて有へきふ侍らねい煙とふー奉らんと
思ひて火打てそでふやうんとし侍をし程ふあ
まりふかふしうあをーうハ閑居の友とも志侍
らまはしくてふゝさをゝこひておろゝくと彼

姿を繪ふとゞめとゞて後ふりふゞとなし奉り
て又野辺の聖の方へ行く見まゝバかきも首ハか
たふき給ひしゝのハおふしくかさちを寫しと
めておふし火ふくたきあげて其夜ハ野辺ふて
よもすがら念佛して一佛淨土へと乞願侍りく
明ぬまゝハ庵りの歌ともとつてふくゝく去侍ゞ
きあもゝたつとかりける事うふ生死心ふまか
せ給へりけるゝ有かさく侍るたゞ人ふらぬ禅
僧ふんどふておもしけるふこそ歌さへ末世ふ
ハあるへしとも覺ゑぬ程ふ侍ゞ

補 祖能和尚像　一幀

補 鎌倉建長寺蔵自畫自讃

補 政矩曰永和丁巳正月云云とあり

宗祇文亀二年壬戌七月晦日死二八十

補 增賀上人像

補 集古十種肖像部云增賀上人像多武峯四海寺蔵

宗祇像　一幀

名畫拾彙云迦衛前久公有丹青之興畫宗祇像上加讃詞賜之紹巴矣

同　一幀

畫正信讃云世ふふるハさらふ時雨のやとゞう
ふ　うゝしおくハわゝいけふうら世のうさも
ふらぬれきふそうらやまれぬる

補 真頼曰此像所蔵不詳右手ふ團扇を持脇卓
ふかゝゞる座像あり前ふ書物一冊あゞ古袿
勢筆と云傳へたゞ

補 宗祇法師像

補畫工便覽卷四云宗祇法師号自然齋又種玉菴紀州人飯尾氏云云祇好圖繪自影其畫上題和歌及發句云云

補宗惠法印像

補常樂臺主老衲一期記下卷云觀應元年四月七日仰圓寂父祖兩所之御影各作讃

補春村曰常樂臺主ハ本願寺存覺上人父ハ覺如上人祖父ハ宗惠法印ナリ

補存覺上人像

補同書云應安四年六月御影奉圖之良圓法師筆也

補春村曰良圓法師古寫本作法印所寫者存覺上人肖像也

多部

大嘗會御屏風

本朝畫史云繪所預文章博士藤原光範同左史生中原景弘大藏史生佐伯季景同修理進藤原有宗（悠紀墨繪之役）内匠少允中原光永（悠紀淡畫）中原吉久（悠紀為作繪有職家称彩色至濃者曰都久利繪）繪所預文章博士藤原業實右史生中原清俊（主基主）主税史生大中臣國基（主基主）藤原行安（主基淡畫）藤原宗弘（主基作畫）右十一人畫工者見千二條殿玉海中世大嘗會時應製者也

同

土佐系圖云行秀（号春日行廣男）永享二年大嘗會悠紀方御屏風及標山調進

同書云光弘（号土佐行秀男）永享二年大嘗會主基方御屏

風及標山調進

同　書手

帝王編年記所レ載歴朝大嘗會御屏風能書家姓拔粹舉二畫工之次一

宇多　仁和四年一廿二　近江播广　野美村

朱雀　兼平元十一十三　近江丹波　村上　天慶九十一十六　近江備中　道風

冷泉　安和元十廿四　近江播广　紀時文　圓融　天禄元十一十六　近江丹波　藤佐理

花山　永観二年一廿　近江丹波　佐理　寛和二年五　近江備中　一條

三條　長和元十一廿三　近江丹波　藤行成　長和五十一十五　近江備中　後一條

後朱雀　長元九十一十七　近江丹波　藤定頼　寛德二年一十五　近江備中　後冷泉

後三條　治暦四年一廿二　近江備中　兼行　寛徳元十一廿一　近江丹波　白河

堀川　寛治元十一十九　近江備中　藤伊房　天仁元十一廿二　近江丹波　鳥羽

崇德　保安四年一十八　近江備中　近衛　康治元十一十五　近江丹波　藤定信

後白河　久壽二年一廿三　近江丹波　藤朝隆　平治元十一廿三　近江丹波　二條　藤伊行

六條　仁安元十一十五　近江丹波　伊行　高倉　嘉應元十一廿二　近江備中　藤伊經

安德　壽永元十一廿四　近江丹波　藤朝方　伊經　元暦元十一十八　近江丹波　後鳥羽

土御門　建久十一廿二　近江備中　順德　建暦二年一十三　近江丹波

補　同

補　古畫目録云、大嘗會悠紀主基御屏風越前守行光

大宋御屏風

江家次第　元日宴會　云、御帳東西去二五尺許、屬二北障子、立二大宋御屏風、

代始和抄　裏書　云、大宋御屏風、唐人の打毬のかさちを繪ゐかきさろ、屏風をいふなり

樂家録　御神樂條　云、大宋御屏風表裏白張、有二薄彩色押

繪唐人乘馬彎弓躾翔鳥之圖也

補 高野明神丹生明神御影　二幀

補 高野山定光院藏畫工不詳摹本博物館ふあぞ

補 真頼曰高野明神ハ女房の如くふ画うけり画上かき丹生明神ハ其状を狩人の如くふ画に梵字あり又置色紙あぞて神語を記せり此の幅三幅對ゑて弘法大師童形の圖を中尊とせぞ

補 多寶佛像

補 畫工便覽卷二云源頼員通議太夫好工善佛像常拜佛員昔時夢一僧拜員曰汝前生善敬伏佛自今以後圖釋迦多寶之二尊將結縁之員覺而隨喜現在二軸見披之夢中二像也員感涙頻濡袖供恭禮拜曰新也是後往々書二像益現奇瑞後南都結庵居留

大元帥像　一幀

補 弘鑑口説（續羣書類從七百七十九）云小栗栖常曉和尚者入唐以前ニ秋篠ニテ入唐ノ有ニ祈誓一或時於ニ阿伽井一太元明王御出現アリ其時ハ太元氏無ニ存知一可レ怖形ナル故ニ悶絶シ給フ然而蘇息有之寫ニ彼像一有テ隨レ身入唐シ給ヒテ太元ノ法御相兼アリ本尊ヲ寫シ玉フ時見給ハ以前於ニ阿伽井一現シ玉フ尊也奇特也云云

本朝畫史云大元帥像小栗栖常曉所レ畫今在ニ醍醐理性院一矣此像者新造内裏之後懸ニ紫宸殿一修ニ此法一

躬行按此法每歲自正月八日至十四日於治部省修之然畫史專言新造内裏者誤矣蓋聞大元帥之法者朝家最所秘崇也而偶看其像面目險惡蛇纏手足腰繫熟人皮兩手挈裸躰男女之髮可謂醜怪極矣嗚呼以此妖妄不祥之物掲朝堂上祭之以為舊式不経之甚豈得不嘆哉

補 太元明王八臂像

補 嚴助僧正記云天文五年十二月□□太元明王八臂像新圖之土佐將監誂之手間三百疋遣之

大威德像 一鋪

倭錦云弘法大師信貴山什物大威德明王

本朝画史云弘法大師畫又造神妙毎寫神佛祖師之像又能用木筆為梵漢字並佛像又有所書経巻字皆象百物形者或曰凡佛像等點睛用石油

大黒天像 一幀

倭錦云信實大黒天東叡山護國院什物

補 真頼曰左手ふ袋を持ち右手ふ槌を持ち俵のうへふさてる像ふり予此の摸本を見る摸本まハ大物主神と記したゞ

補 同

補 同書云土佐光弘大黒天神

補 同

補 同書云土佐光元大黒 光成 極

補 同 一幀

補 狩野養信藏絹本畫工不詳摹本博物館ふあり

補 真頼曰倚子ふうゝきる像ふく右手ふ槌を

持左手ハ寶杵をもち袋を負ひさり原本ハ文
政十二年焼失をと云へり

大勝金剛像　一鋪

東寺御影堂具足目録云壹岐守有久筆

互爲御影　二鋪

同書云壹岐守有久筆禪聖法印寄進之

補達磨像

補新編鎌倉志巻三（建長寺條）云開山宋ノ大覺禪師
諱ハ道隆蘭溪ト號ス寛元四年丙午ニ來朝ス云
云朱衣達磨畫一幅開山筆

補真賴曰開山といへるハ大覺禪師ぁり

補同

補倭錦云尊氏公達磨畫賛京等持院什物

當麻淨土曼陀羅　一鋪

畫巧便覽云中將姫横佩右府豊成公女天平宝字
七年六月入當麻寺薙髪即當麻曼荼羅本願也工
綉織繪佛像最佳（但名画恰象拔載之）

同新曼荼羅

本朝畫史云良賀以畫工叙法眼位曽　土御門院
承元二年和州當麻寺僧鏡忍坊良善坊惠阿弥等
合心欲圖新曼陀羅憑按察使藤原光親奏之有勅
許詔繪師良賀源慶令寫之今所有本寺新曼陀羅
是也又云源慶叙法眼與良賀預曼荼羅繪事畫未
成源慶罹病而死又云源尊源慶之子也慶死後共
良賀成曼陀羅圖後叙法眼
倭錦云巨勢源慶當麻新曼荼羅

道の奉（當麻寺條）云、今の本尊ハ新曼陀羅とて、建保二年、法印良賀法眼源慶ゐ勅して、新ゐ摹し、文字ハ行能卿勅を奉ゑてくかゝゑけるよし、厨子の扉ゐハ時の帝をもじめ、公卿殿上人鎌倉の右幕下大小名、及貴賤男女の名記しあり、古曼陀羅ハ其うちゐひめおきて、猥ゐをおませぞ、猶夫も轉寫ゐて、まことハ厨子の板ゐもゑてありしを、延宝年中京都大雲院の性愚といふ僧のもゝらひろ、別ゐ全圖を摸し、其上ゐ正真のまんだらめき殘ゑさるざけいうつしもゑさるゐり、げゐさもやとみゑさゑむゝし巻うへをたびゐ、そこねんこゆをゑしらく、板ゐもゑしハ四條院の仁治年中のこゝゝぞ

補 能書事蹟上巻云、當麻寺新曼陀羅保延五年畫工良賀法印源慶法橋銘文修理太夫行能朝臣（當麻寺縁起）按ゐ當麻寺縁起年暦大きゐ相違きり行能朝臣ハ延應二年卒と大系圖ゐあり保延五年ハ延應二年ゐりハ九十年計も已前也行能朝臣ゐハあらじ定信朝臣ゝ伊行朝臣ゐゝべし浮屠氏の縁起傳説ハ後世わしもゑに記せゝまゝ信しかゝきこと多し

貫雄曰、新曼陀羅實ゐ比類ゐし、武者平治物語の繪ゐ似さゑ

躬行按ゐ、巨勢系圖、兼茂男有宗の末弟源慶、源慶の子丹後房隆慶ありて、源尊を載きじ、畫史の説猶勘ふべし

同　一鋪

和長卿記文亀二年七月廿一日云、依番衆内、當麻曼荼羅古物朽損之間、瑠璃壇張付之了、仍今度有比丘尼以勧進之功、令新圖之九品配立之文字并經文等申請宸筆之間、此一両日被渋勅筆了、今日予拝見之、以金泥被遊、莫大之文字不及數日被遊出、奇特之至也、可致校合之由被仰下之間、字々致校合畢、點畫一両字相違之所申入了、絹廣一丈六尺也、根元之寸尺云云、南都畫師書之此事陽明准后執奏之間被渋宸翰了、御結縁之儀云云、尤殊勝云云

補多聞院日記略云、天正十七年七月廿七日繪所侍従ハ播州江下處當麻ノ曼タラヲ百貫ニテ受取云云

展閲目六當麻條云、大曼陀羅一幅、藕糸曼陀羅寫躬行按ふ、展目ふ所載、筆者を記さぎといへども、上件東坊城和長卿記ふいふ所の、宸翰題字の曼荼羅ふるべく、此御ハ　後柏原帝ふましまさべし、陽明准后ハ後法興院関白政家公ふ

補胎蔵界曼荼羅　一幀

補續本朝文粋巻十三云、皇后宮四十九日願文、菅忠貞朝臣、奉圖繪胎蔵界曼荼羅一鋪、奉書寫金字妙法蓮華經等、

當麻曼陀羅縁起　二巻

鑑倉光明寺蔵

奥書云、右曼陀羅之縁起上下巻、土佐古將監真跡、

當麻曼陀羅
緣起
鎌倉 光明寺
藏

決而無涉干猶豫者也狩野永真法眼証之

補古畫類聚目録云當麻曼陀羅縁起住吉慶恩筆詞書寺蔵住吉法眼筆

補古畫目録云當麻曼陀羅縁起住吉慶恩筆詞書後京極殿筆二巻鑑倉光明寺藏摹在白川邸原本寛政癸丑夏観于豆相道中

本朝畫史云住吉法眼不知姓名善佛像人物兼能花草和州當麻寺有中將姫縁起二幅

倭錦云繪住吉慶恩當麻曼陀羅縁起詞後京極殿

新編鑑倉志七巻云光明寺蔵浄土曼荼羅縁起二巻詞書ハ後京極良經公畫ハ土佐將監光興筆ナリ躬行曰此縁起元禄中安藤矣寄附于鑑倉光明寺云詞書收於羣書類從第四百卅七其跋曰右

當麻曼陀羅縁起以相摸國鑑倉光明寺所蔵後京極殿真蹟一校畢畫圖住吉法眼慶恩筆云また云良經公ハ建永元年二月七日薨ぎり慶恩の履歴詳ならぬよしハ既ふいへとき

補可爲曰畫住吉法眼詞ふし

補真頼曰當麻曼荼羅縁起ハ土佐古將監真跡あとと狩野安信のいへるハ土佐光信ふるべし然るを新編鑑倉志ふ土佐將監光興とき

る古將監を將監光興と見あやまるふるべし此の繪光起ならぬことハ更ふもいとゞ光信のあずけとも見ゑゞ繪ハもふいさめでたし當麻曼陀羅縁起二巻摹本博物館ふあと

當麻寺縁起　三巻

畫刑部大輔光茂詞　後奈良帝宸翰及親王公卿
集書
本朝畫史光茂傳云余所見和州當麻寺中將姫縁起
風情有餘能世其規矩
展閲目録當麻寺條云繪詞傳三巻畫土佐光茂詞逍遥
院實隆公作書　後奈良院宸翰青蓮院尊鎮法親
王梶井宮慈胤法親王近衛尚通公同植家公聖護
院道増逍遥院實隆公西室公順僧正三條西公條
公
倭錦云當麻寺新縁起刑部大輔光茂詞後奈良院親王公卿
九人筆
道の幸同條云繪詞縁起三巻繪土佐光茂詞ハ逍遥
院内府の作ふく　後奈良院宸翰をもとめ時の
親王公卿西室公順僧正おど九人の筆あり享保
辛卯内府れ奥書あり
補本朝畫圖品目云當麻寺中將姫繪詞畫土佐光
茂詞逍遥院實隆公作書寄合書
補圖畫一覧下巻云圖畫品目云當麻寺縁起畫光
茂詞實隆公作寄合書云云
補元幹曰余少年之時於清水寺開帳之時則觀
之三百年前ノ畫品也光茂ナルベシ
補真頼曰倭錦ふよるに此の縁起ハ當麻寺新
縁起と称するものなりまさ本朝畫圖品目ふ
據るよ當麻寺中將姫繪詞ともいへるもそれ
いち是あり又法恕繪詞ともいへりはノ部見
合せべ

多武峯縁起　四巻

畫圖品目云。畫土佐光信。詞一條禪閤外題近衛基熙公

補圖畫一覽下巻云。畫圖品類云。多武峯古縁起多武峯本社蔵（古画類聚目録亦之を載す）

補古畫目録云。多武峯縁起畫土佐光信トイヘドモ光信ニ非ラズ詞書一條禪閤兼良外題近衛右大臣家熙公筆絹本詞書ノ上押色紙ノ如ク白クヌリテカケリ大和國多武峯塔中慈門院携来寛政九年六月十四日観ニ於八丁堀一

展閲目録（談峯條）云。古縁起二巻（筆者如前）今分ニ四巻一

道の幸（同條）云。縁起繪詞四巻。もとい上下二号ふり元禄の頃。修補の時ふり分ちけるといふ。畫土佐光信。詞一條禪閤。外題ハ近衛基熙公也。まさ　後水尾院勅詔ふて。新寫ありしふし二巻あり繪住吉如慶具慶。詞ハ二條光平公をもしめて。時の公卿四十二人の筆ふり

倭錦云。談峯縁起繪。土佐守行廣。詞一條兼良公

談峯縁起便蒙云。談峯縁起有二二本一。古縁起者　後鳥羽院御宇建久年中談峯僧正上法院永濟製文

其後　後花園院御宇文明年中一條禪閤兼良淡筆。土佐光信圖（一説光茂圖）新縁起者。文章如向。筆者寛文年中因　後水尾院敕藤氏堂上四十三人筆也。

畫亦依勅住吉如慶同具慶圖

補弘賢曰。もとい上下二巻ふりしを元禄頃修補の時分て四巻ともと云云

詞漢文。画中所々文の長短ふちらひて大小の色紙形を作りてこれを書きり新縁起もまたくれあるあし

貫雄曰行廣所畫の古緣起俗手塗抹の災ふ係
るく、さらふ古色を存ぜば惜むべし
朗行按ふ行廣ハ融通念佛緣起裏書ふるく
應永中の人とそべき事論ふし、禪閤ハ文明十
一年八十才薨ぎらろ、行廣とハ聊時代おくれ
たるべし、又便蒙ふ一說光茂とあるも誤也、光
茂ハ光信の男天文頃の人ふるべ、禪閤まハ年
歷後ぎさり

同新緣起　二卷

倭錦云、依後水尾院勅多武峯新緣起任吉如慶具
慶兩筆
展閲目六條談　峯云、依二後水尾院勅住吉如慶具慶
寫之、詞筆者、二條光平公、花山院定好公、鷹司房輔
公、二條康道公、東園基賢卿、德大寺公信公、大炊御
門經孝公、三條公富公、葉室頼業卿、九條兼晴公、烏
丸資慶卿、西園寺實晴公、油小路隆貞卿、坊城俊廣
卿、近衛基凞公、梅園實清卿、四辻季賢卿、飛鳥井雅
章卿、三條西實教卿、日野弘資卿、正親町實豊卿、柳
原資行卿、松木宗枝公、今出川公親公、持明院基定
卿、藪嗣孝卿、園基福卿、山科言行卿、藤谷為條卿、小
倉實起卿、河野季信卿、中園季定卿、堀川則康卿、勘
解由小路資忠卿、今城為繼卿、清水谷公榮卿、冷泉
爲清卿、四條隆音卿、清閑寺凞房卿、野宮輔定卿、桂
昭房卿、廣橋貞光卿、
補本朝畫圖品目云、多武峯新緣起二卷畫住吉如
慶詞寄合書

補 倭錦云、多武峯新縁起依、後水尾院勅、住吉具慶如慶両筆

道成寺縁起　二巻

補 本朝畫圖品目云、道成寺縁起二巻一應永年間ノ畫南紀名勝志云、天音山道成寺縁起二巻有、繪者土佐將監筆之由、書ハ後小松院宸翰也ト云ヘり或曰徹書記之由、此説可然歟、体勅筆ト見エズ、右ノ縁起ヲ將軍義照卿、由良興國寺ニ來ル時披見シ奥書ヲ加ヘ判形シ給フト也

躬行按ふ、摹本巻末云、右此御判者御公方樣天正元年十二月日、至興國寺被移御座節此縁起爲御所望之間、即懸御目、御感不斜云云とあきバ名勝志ふ義照卿とあるハ義昭將軍の誤ふり但柳菴随筆ふ道成寺一ハ應永年中の繪、一ハ土佐廣周とあるハ、日高川雙紙を混じいへりときこゆ

補 真頼曰、道成寺縁起二巻、摹本博物館ふあり、巻尾云、右紀伊國道成寺縁起上下二巻、松平豊後守殿うの寺より借く、繪師古藤養山ふ上巻をうつさしむ、ゆゑふこゝろさへ来りしうバ上巻ハ原本を摸も下巻を同く繪師馬場伊春ふうはさしむ、屋敷ふくうつもあきバ、後ふまた下巻を、豊後守殿より借りて、再ひまさこきを摸も、文政四年四月廿四日、法眼養信、と見ゑたり

補 又曰、道成寺縁起のうさハ、日高川草子ふり

道成寺縁起 紀伊國道成寺藏

女房ハ法師ノ
あれ
ゆく
いまの
法師ハ
かほ
人ぞ
なるまし

も畫樣おほきし。但趣ハれあしさまあり。ひノ部見合もべし

補 同　二巻

補 古畫目録云。道成寺縁起二巻大坂瓦町たゝや庄兵衛蔵

補 同　二巻

補 交詢社蔵

補 真頼曰。此の繪詞委しくハひノ部日高川雙紙の條ふ掲載も就て見るべし

補 太宰府天満宮縁起　十二幅

補 本朝畫圖品目云。宰府天満宮縁起十二幅

補 真頼曰。天満宮縁起の事委〳〵ハてノ部ふ出きり見合もべし

補 道明寺繪詞　三巻

補 圖畫一覧下巻云畫圖品目云。畫上巻従三位延致中六條有藤卿下藤原光芳詞寄合書

補 道明寺天神縁起　三巻

補 圖畫一覧下巻云畫圖品目云畫書三好丹後守房長

補 元幹曰。道明寺繪詞と別歟

補 太宰府天満宮縁起　三巻

補 圖畫一覧下巻云信充曰太宰府縁起十二幅の拭物也北野荘柄と大ふ異なり

補 元幹曰。題号宜作太宰府安樂寺天満宮縁起

補 真頼曰。太宰府天満宮縁起ハてノ部天満宮縁起太宰府社蔵の條見合もべし

補 唐招提寺縁起

補 圖畫一覧下巻云.唐招提寺縁起按ふ鑒真和尚の東征傳なり

補 真頼曰.唐招提寺縁起とゝの部東征傳の條見合せべし

多賀大社縁起繪 一幀

傳云.俊乗坊重源所畫 詞副之

或云.詞書後人所偽造

大念佛寺縁起 二巻

畫圖品目云.書尊圓親王 脱二画工

大山寺縁起 二巻

書畫筆者不知.模本跋云.利壽大權現宝物 伯耆國大山寺蔵

續群書類從八百十五.有伯耆國大山寺縁起一巻

補 真頼曰.大山寺縁起二巻摹本博物館ふあり.置色紙のうちふ詞書あり

高瀬寺縁起 一巻

倭錦云.巨勢有康高瀬寺縁起

補 太子傳繪

補 真頼曰.太子傳繪ハ聖德太子傳繪なりとゝの部ふ出きり就く見るべし

補 高松殿夜討の巻

補 圖畫一覧下巻云.光顯筆高松殿夜討

補 高松殿夜討ゝ保元平治物語繪の殘欽ふりはゝの部を見合せべし

補 竹崎季長繪

補 古畫類聚目録云.竹嵜季長繪

初の詞
むらし高野の天皇の御時左大臣ゐこれ中まろとゝふ人おもーらり
末の詞
夫より御門の位おほさ給ふとゝめおハ宇佐の宮れ使よ名清まろがぞうを ふん奉らを給ひけるそのゝち女帝ハたをて、ゝらるふにき給ふ絵五段あり一名恵美押勝雙紙ともいふゝ

補 真頼曰、竹嵜季長繪とあるハ蒙古襲来繪詞のことありもノ部見るべし

道鏡法師繪詞　二巻

書畫筆者未詳、摹本巻末云、以二豊前國大貞薦宮神主宇佐重常所持之本一書寫訖、従四位上修理權亮紀延親

畫圖品類云、鳥羽僧正筆

躬行曰、品類所載の筆者最疑ふべし、但續群書類従第九百卅一、道鏡法師繪詞あり

補 元幹曰、畫圖品類云、弓削道鏡寵幸圖一巻鳥羽僧正所畫道鏡法師繪詞一巻右同物歟とあ

七夕雙紙繪

類聚目録、載之

補 古畫目録云、七夕草紙京都土佐守繪本

躬行按ふ、此棚機草紙ハ、天若彦雙紙の一名ふるべくおぼゆ、其説かの條ふいへる

俵藤太雙紙　三巻

補 本朝畫圖品目云、俵秀郷草紙黒谷光明寺什

繪光信、詞筆者未詳（黒谷金戒光明寺蔵三巻狀）

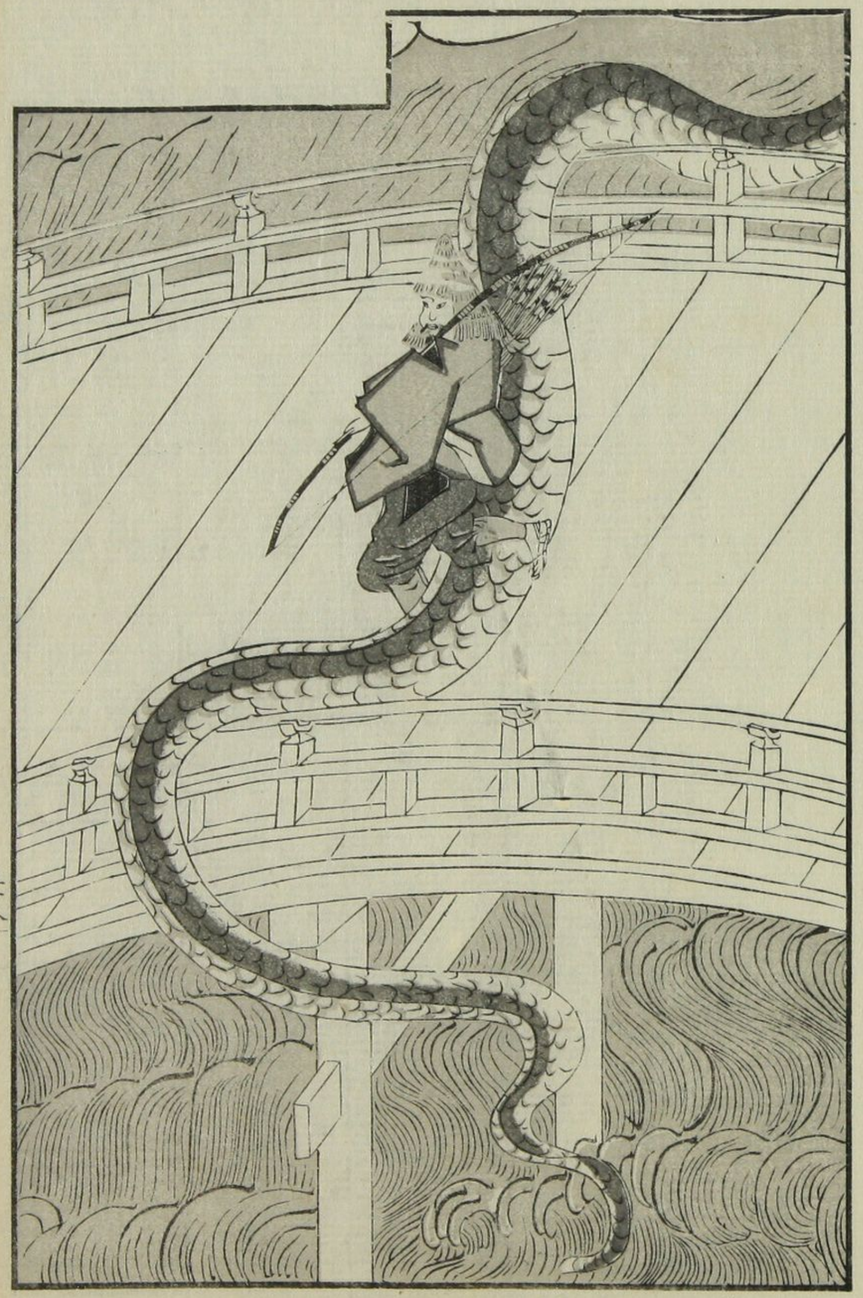
補 同

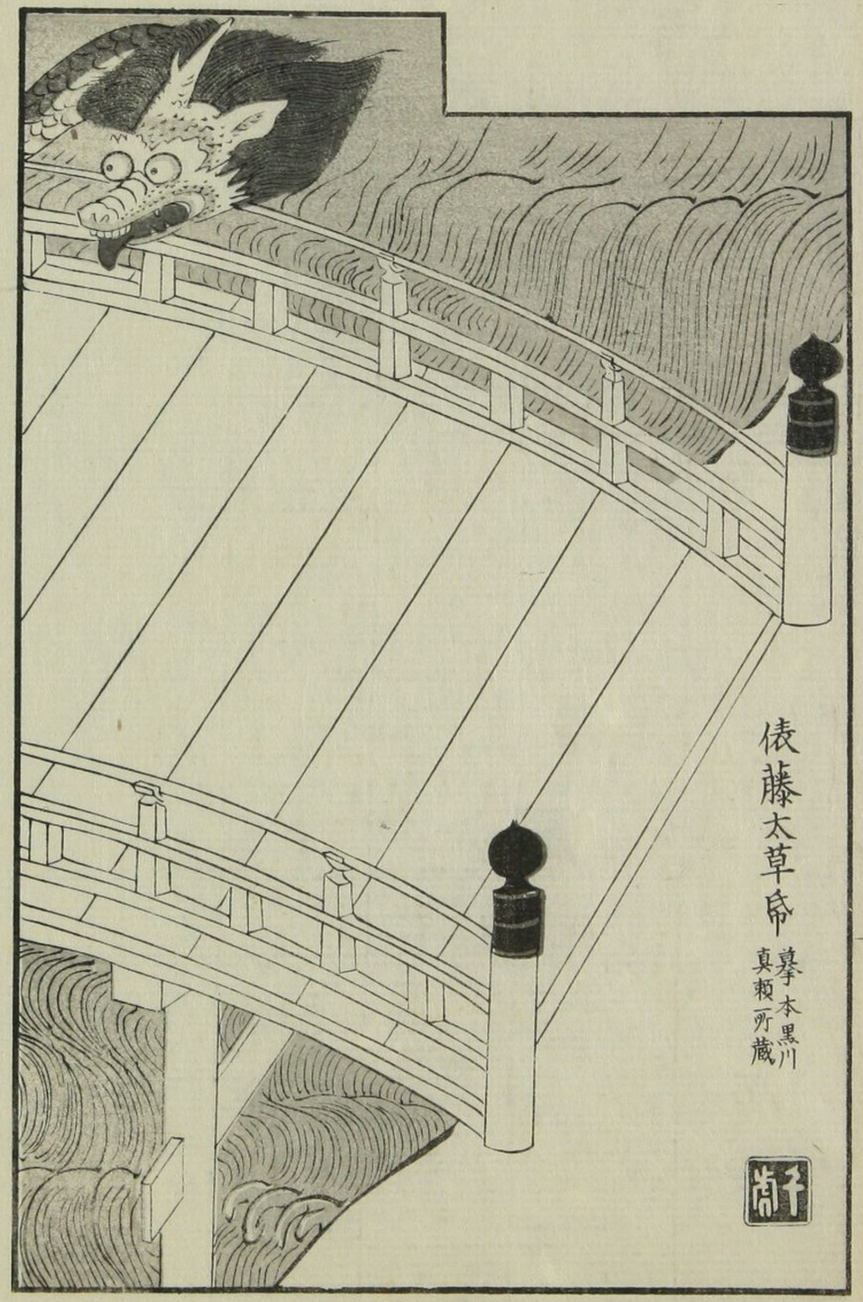
補 倭錦云、春日行長俵藤太草子

高舘合戦繪詞　一巻

畫越前守行光、詞世尊寺三位行忠卿

補 真頼曰、高舘合戦繪、摹本一巻博物館ふある、巻尾云筆者越前守藤原行光、詞三品行忠卿右





俵藤太草帋

摹本黑川真頼所藏

者島津家ホ有レ之ト見ヱさり

太平記繪　十卷

畫圖品目云畫海北友雪

補古畫目録云太平記繪六卷友雪筆江戸淺草砂利場片山五郎兵衛藏

補真頼曰予太平記繪殘缺二卷を見るこの繪恐らくハ友雪の作ふるべし畫中に詞をかきましへさるもれふり

補待賢門院合戦繪　一卷

補圖畫一覧下卷云畫圖品目云待賢門合戦繪一卷光顯畫

補春村曰保元平治物語の殘缺のうち歟

達摩堂雙紙　一卷

行俊卿三木従三位應永十四年十月十日薨光宣月徳中之人

倭錦云畫工佐光重詞行俊卿

彈誓上人繪詞傳　二卷

書畫筆者未詳尾張國名古屋長福寺藏

元幹曰響寓尾州日閲本寺書目知之然ホ見其物矣長福寺俗称七箇

補春村曰七ツ寺ハ名古屋南寺町長福寺ふて真言宗ふ

補玉藻ふあそぶ物語繪

補明月記云貞永二年三月廿日云云日来撰出物語月次十二月五所不入源氏并狹衣於哥ハ拔群他事ハ雖不可然源氏當時中宮被新図狹衣又院御方別被書此所撰夜寐覺御津濱松心高東宮宣旨左右袖濕朝倉御河ホ開留取替波也末葉露海人刈藻玉藻ホ遊以十物語撰毎月五金吾

清書訖又加一見返之付繁茂進入云云以取交為興

醍醐男色繪　一卷

橘窓自語云鳥羽僧正戲畫云云或人ノ物語ニ醍醐山某院ニ男色ノ卷有ト云リ實否ヲシラズ

貫雄曰理性院ふあり未見其物或云三宝院ふ仍ヲ之

大内裏圖

好古小録云南都故家所傳東寺所傳一故家所傳匡遠抄所載圖古本拾芥抄所載圖拔本拾芥抄所載圖印本拾芥抄所載豐楽院圖脱醍醐寺所傳圖應永千分一圖各小異同アリテ各益アリ但應永千分一圖醍醐所傳圖ハ諸圖ニ及ハズ

又云朝堂院諸圖年中行事繪ト合ハズ年中行事畫ハ保元造内裏ノ制全盛ノ時式ニ非ズ

又云木工総官ニ古ク傳フルト云大内裏圖アリ大内裏ノ結構ヲ不知モノヽ偽作也先輩此圖ヲ珍重ス怪ムベシ

國朝書目云大内裡圖南都所傳一鋪神泉苑所傳一卷醍醐水本坊所傳一鋪又一卷大内裏皇后圖一鋪又一卷

補本朝畫圖品目云大内裏圖神泉苑什東寺什醍醐寺什各小異アリ

同　一卷

後愚昧記應安二年二月九日云大内指圖不審之事有之仍借九條前関白經教公云所被送繪廣幅絹書之卷繪也八省院豊楽院等悉有之古物也芳志之至也十三日大内繪返遣九條了

同

後深心院関白記（道嗣公）永和元年五月廿八日云、及晩自仙洞被下御書、平戸記（貞應二年）六巻被下借、（昨日以顕保卿申入了）又大内圖所持之由聞食可進覧之由被仰之間、即進之、圖者累代之本也廿九日及晩自僊洞被下御書、大内繪所被返下也

大内裡考證圖　八巻

裏松光世入道固禪撰（圖考証本篇五十巻、別録十巻）

同　九鋪

京城畧圖、宮城圖、神祇官圖、大政官圖、八省院圖、武德殿圖、豊樂院圖、大學寮圖、真言院圖

此九ひらい、尾張大納言殿の仰事うけ給ヲて、裏松少納言入道のもれし給ひし、大内裡圖考証五十巻別録に補正をし時、はい伝ふ造り出たるせさきばむねとハ其説ふ随ふといへども、たまくく其丈尺のたゞへるものふきふしもあらぬべ、さるたぐひハなほ舊記を尋ねてやむことをえぢあらさめもれしつ、云云おふじくいをヲかさ木ふありもれして、をしへ子らふあうちてむものをと、ことし天保十一年庚子のとしやよひでうヲ、かくざまにをれしつる也、云云内藤廣前撰

補　大極殿御即位圖　一巻

補　尾張張家所藏

補　真頼曰、予未ダ原本を見ず大石真虎の摸寫せるを見る其の圖彩色ありて人物のさけ大凡二

寸五分許卷物のたけ三尺許ふて甚おほきな
るもれかり大極殿めさまを見むふい此の圖
ふ及ぶもれふうるべし

太政官正廳圖　一鋪

國朝書目載之

大嘗會御禊頓宮圖　一鋪

同書載之

谷川琵琶

撥面畫樹下打毬之圖。槽華擱木是弘長中僧唯念所摸造玄上也（安藝國伊都岐島社神宝）

谷風琵琶

槽紫檀撥面畫波犀圖（本名卯花伏見宮御藏）

待賢門合戰屏風　二帖

遠碧軒記云。神泉苑ノ什物ニ。三甫筆ノ待賢門ノ屏風一雙アリ。名物ナリ。云云是古法眼ノ筆トイヘトモ。サニテハナシ。武者繪カキノ三甫ガ筆ナリ

當麻寺建立繪圖

畫圖品目云古土佐筆（高野山藏）

補 古畫目録云。當麻寺建立之繪畫古土佐詞書似行能卿高野山清淨心院藏

補 爲氏常則の屏風繪

補 榮花物語卷八（もとつの卷）云その御具ともの屏風どもいためうぢつねの君ふどがかきてさうふうこそハおきしげるさいかきたれいとじうゆでたしかしそれうこのもれなきどさゞ今のやう

ふちをもまびあさやうふもちゐさを給へりし
に云云

補 打毬圖　一幀

補 繪足利義政公紙本博物館藏

補 真頼曰此繪人物沓と塗木履をもきて打毬
もろ休あり

補 大寶塔圖

補 畫工便覽卷三云大蔵卿不知其名相陽人精画
佛像正中山法華経寺有大寶塔圖其畫上書日蓮
經文深旨以為題号所圖日蓮小寶塔相對為両幅
大寶塔小寶塔為寺寶第一矣

大安寺圖

國朝書目載之

補 真頼曰はゝ部布袋和尚の像の條見合もべし

補 瀧見布袋像

補 倭錦云宅磨榮賀瀧見布袋印有

補 真頼曰此の繪ハもと堀内蔵頭蔵ふり今ハ
柏木貨一郎所蔵とふる

補 多武峯十三重塔壁畫

補 多武峯略記下卷云去延喜年中沙弥仁照始安
四佛繪像于今在之其後文治元年供養之時氏長
者御願文云殊抽懇府之新誠更思佛屋之復舊寺
家勠力土木勵功建立檜皮葺十三重塔一基四方
奉圖繪三尺弥陀釋迦藥師弥勒像各一軀矣繪師
式部大輔藤原光範作永範卿息

補 常行三昧堂内陣柱畫

補 同書常行三昧堂の條云治兼四年檜皮葺々工藤井是

清國成内陣四本柱画ユ清舜

補 同寶積院柱及後壁佛菩薩畫

補 同書（宝積院の條）云、件堂者沙門陽圓之所二建立一也其後文治五年夏之頃柱并佛後壁板佛菩薩像圖之墨畫十禪師智永彩色清舜九月廿八（丁丑）日供養

補 同平等院後壁六地藏畫

補 同書（平等院の條）云、建久六年六月十四日後壁板畫二六地藏願主法眼康慶畫師善範

補 大傳法院壁繪

補 野山名靈集卷三云、鳥羽上皇ハ覺鍬上人ヲ歸し給ひく當山ヲ大傳法院を建らゑ塚内をべく一十三宇玉をみうき金をちゑもむ尤天下の莊觀さゑ〜とうや五間二階の本堂本尊ハ金界の大日如来一丈二尺脇士ハ金剛薩埵（左）尊勝仏頂（右）共ヲ丈六の尊像あり柱ヲハ三十七尊の字印形を畫ゝき後の壁ヲハ両界の曼荼羅を拭らゑ東曼荼羅の壁ヲハ龍猛菩薩南開塔の形勢を畫き西曼荼羅の壁ヲハ釋尊菩提樹下成道の躰畫く皆帥上座淨智の筆ゝりと具ヲ覺滿の記ヲ見へたゑ

補 高畑藥師寺扉繪

補 本朝畫圖品目云、和州高畑藥師寺扉の繪

補 大報恩寺釋迦堂のはめれ繪

補 倭錦云、春日光長京大報恩寺釋迦堂ハメノ繪高倉宮肖像　一幀

筆者未詳（模本云、岩代國會津郡高倉宮藏）

大學寮先聖先師九哲像

江家次第釋奠云仁平三年八月台記先聖先師九哲
像則巨勢金岡所寫也云云延久四年三月十四日
甲子權中納言隆俊卿着仗座奏大學寮先聖先師
九哲像可被修補日時勘文件像元慶四年巨勢金
岡以唐本所奉圖繪也而年序久積破損尤多仍所
修補也云云或説曰吉備大臣入唐持弘文館之畫
像來朝安置太宰府學業院大臣又命百濟畫師奉
圖彼本置大學寮云云先聖先師古者以周公為先
聖以孔子為先師唐太宗貞觀二年以顔子為先師
國朝書目云大學寮先聖先師九哲粉本一卷
好古小録云殘缺畫者姓名不傳畫所預家ニ傳ル
所世ニ誤テ賢聖障子ノ粉本トス畫力賢聖障子
ノ粉本ニ及バズ

此影於本社ハ篁卿所圖トソ然ども現存せる所ハ普通の摹画ゴしてみる足らび但此寺明治の初め廢して社とあし談山神社トソ

補本朝畫圖品目云大學寮先聖先師九哲畫所預
家所傳

補真頼曰畫所預家ハ傳ふるものハ粉本ゐる
こと好古小録ふいへるゲ如し

大織冠影　一幀

倭錦云巨勢金岡鎌足公多武峯本尊
貫雄曰大織冠公影數本あるといへども金岡
真蹟を以て第一とゝもべし

同　一幀

展閲目録談峯云多武峯小野篁筆畫像一幅服侍淡海公慧定納于本殿長者宣あらさるバ啓龕をる事あ
たゝび

道の幸同條云。抑大織冠の木像あらさふく帳を開く拜もることと不能ふし又小野篁筆といひ傳へし畫像あるそもさへも長者宣ふけきバ披封せざるよしふく轉寫の影どもあまさとも出けきどもいづもも筆拙しくてゑるゑたらび。

本朝畫史云。小野篁峰守子為世重也仕弘仁帝官至参議特學廣才人之所不及也其畫又臻神名畫拾彙云。小野道風書法妙絶亦作画圖多武峯護國院藏大織冠神像高野山小坂房藏勢至像并稱所畫

躬行按ふ此神影展閲目六。道のさちふハ篁卿筆とし拾彙ふハ道風朝臣ともその是非をもらぞ

同　一幀

秦致真筆　小幅

大臣真影

豪信法印所畫。自花山院左府家忠公至今出川右府兼季公。大臣八十人肖像也

卷尾云大臣影豪信法印筆也。銘添愚筆了。不可出圖外了

大臣八十人像。藏在陽明藤太閤之家。爲其像則僧豪信所畫而。其跋語未詳其人也云。畫様字體一照原本。摺寫着色裝成二卷。藏於東武秘府。寶永六年十月十八日

補本朝畫圖品目云。大臣卷二卷畫豪信信實朝臣ノ孫ト云傳フ

補 古畫目録云大臣影二卷関東御府所蔵在御ス
キヤ 敷山僧□□□畫
補 園太暦貞和四年十一月廿七日今日豪信法印
来予謁之可寫予顔云々者先年風雅集竟宴可被
畫似繪為其此間於仙洞被召人々令畫之予向里
弟可令畫沙汰云云余者冠直衣謁之民部卿同令
畫云云

補 真頼曰大臣真影或ハ大臣圖ともいふ二卷
ふり花山院左大臣家忠ふたもしめて今出川
右大臣兼季公ふ終ふ大臣八十人の像ふり摸
本博物館ふあり

同 一卷

本朝畫史云後圓明寺関白兼冬公好丹青天文十

年十月行年十四歳自畫月輪(兼実公)攝政光明峯寺(道家公)攝政
普光園院(良実公)攝政洞院(教実公)攝政圓明寺(実経公)関白之遺像為一
卷非凡手之作今在一條殿
補 本朝畫圖品目云異本大臣卷一卷
淡海公像
畫工不傳藤原不比等公像(九條家所藏)
補 本朝畫圖品目云淡海公像九條殿御蔵(古畫類聚目録)
(ホこまるおふし)
補 當麻蹶速像
補 古畫類聚目録云當麻蹶速像南都興福寺藏
補 真頼曰野見宿称と蹶速と二人の像ふりの
ノ部野見宿称の像の條見合もべし
補 為相卿像

補 集古十種肖像部云藤原為相卿像鎌倉光明寺藏

補 本朝畫圖品目云冷泉為相卿像鎌倉光明寺什

補 古畫類聚目録云中納言為相卿像左京少進光芳筆鎌倉光明寺藏

補 真頼曰衣冠の像あり

補 武田晴信像

補 同書云武田晴信像高野山成慶院藏

補 真頼曰素袍のごときものを着せり前ふ松樹ありて鷹とまり摸本博物館ふあり

補 同

補 高野山成慶院藏武田逍遥軒筆

補 真頼曰此の圖よろひを着て兜を着びかゝらに置けり頭髪を露せり手ふ扇をもち床机ふかゝり其の傍ふ法螺あり摹本博物館にあり

補 同法躰像 一幀

補 所藏者不詳繪逍遥軒印あり摹本博物館ふあり

補 真頼曰右手ゑ檜扇をもち左手に珠數をもてる座像あり傍らふ太刀をたてり

補 多賀豊後守像

補 本朝畫圖品目云多賀豊後守像

補 真頼曰所藏者詳ふらびに按もるふ多賀豊後守ハ多賀高忠歟

丹波康頼肖像

畫工姓名不傳

畫中記云、醫博士肖像、所傳盛長為祭祀更摸之、延文乙申八月典藥頭（西京淺井三河介藏）裏書云、針博士、醫博士、賜丹波宿祢、左衛門佐従五位上

摸本云、元治元年甲子十一月廿二日以原本摹寫

蜷川親胤

躬行按ふ、延文五年ふして畫く、乙申ふし

補 同像

補 京都淺井三河介藏像下ふ記して曰もく醫博士肖像所傳盛長為祭祀更摸之延文乙甲八月典藥頭口口判と見ゑさり摸本博物館ふあり

補 大覺禪師像　一幀

補 鎌倉建長寺藏絹本画工不詳摹本博物館ふあ

り

補 真頼曰、手ふ竹箆をもち倚子ふかゝまる像ふり畫上ふ自筆の賛辞あり

補 同　一幀

補 鎌倉建長寺藏絹本畫工不詳摹本博物館ふあり

補 真頼曰、手ふ竹箆をもち曲彔ふかゝまる像ふり畫上ふ賛辞あり靈石の記もる所ふり

補 大通禪師像　一幀

補 大德寺藏繪宗潙、摹本博物館にあり

補 真頼曰、曲彔ふかゝれる像ふり、畫上に賛辞あり、天文五祀丙申仲春上澣日、前大德小溪叟紹怤自訐と見ゑたり、小溪ハ則大通禪師ふり、

裏書に寶曆十二壬午閏四月修補興臨院常住
と記せり

補 同　一幀

補 大德寺藏繪宗俊

補 真賴曰曲录ふかゝりたる像あり畫上ふ自賛
あり天文五祀丙申林鐘上浣日前大德小溪叟
紹怠老謬と見えさり摹本博物館ふあり

補 大空上人像　一幀

補 藤澤道場藏絹本畫工不詳摹本博物館ふあり
記して云遊行十四代他阿大空上人像應永比壽
像賛自筆

補 真賴曰倚子ふかゝりたる像ふり畫上ふ詩と
歌とを題せり

補 大燈國師像　一幀

補 所藏者不詳畫工不詳摹本博物館ふあり巨幅
ふり記して云延宝三年の摹本中搞の狩野祐清
所持

補 真賴曰倚子ふかゝりたる像ふり

補 湛照和尚像

補 畫工便覽卷三云智首座善丹青嘉曆元年師錬
九歲春衆請講心論秋七月智首座寫師照因自為
賛矣

補 真賴曰照とあるハ湛照和尚ふり元亨釋書
卷八ふ三聖寺湛照と見えさり

唐僧影　一卷

畫工未詳白描畫祖師像稿本也（卷表記云唐本高山寺什）

補 道範律師像

補 古畫類聚目録云.道範律師像高野山正知院蔵

補 大明國師像　一幀

補 南禪寺蔵畫工不詳.賛辞.亀山天皇御製.後柏原天皇宸翰.摹本博物館ふあり

補 真頼曰.半身の像ふり大明國師ハ南禪寺開基無関普門ふり

補 大隆禪師像　一幀

補 相摸國箱根早雲寺蔵大隆禪師自畫

補 真頼曰.座像ふく畫上ふ自讃あり

補 同　一幀

補 同所同蔵畫工不詳

補 政矩曰.座像ナリ畫上自讃アリ畫工詳ナラズ寺傳ニ云フ宅磨筆ナリト筆力遒勁ナリ恐ラクハ土佐光信歟

補 真頼曰.大隆禪師ハ以天宗清の謚ふり天文廿三年正月十九日寂も年八十三早雲寺の開山ふ

增補考古畫譜卷七終